

# スポーツ観戦者のソーシャルキャピタル - プロ野球観戦者における検証 -

天田 麻友 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)  
指導教員 吉田 政幸

キーワード：ソーシャルキャピタル，プロ野球，スポーツ観戦者

## 1. 緒言

スポーツの社会的効果を捉える概念として注目されるのがソーシャルキャピタルである。ソーシャルキャピタルとは人々の中の積極的なつながりの蓄積によって構成されると述べられている (Cohen and Prusak, 2003)。しかし、長積 (2006) を除くと、スポーツマネジメント領域でソーシャルキャピタル自体を深く検証した先行研究は少ない。そこで本研究は、プロスポーツ観戦者に着目し、(1) スポーツファンのソーシャルキャピタルを概念的に定義し、測定すること、(2) スポーツファンのソーシャルキャピタルが形成された結果、観戦者の支援的行動と再観戦意図に与える影響を明らかにすること、(3) スポーツファンのソーシャルキャピタル、支援的行動、再観戦意図の関係性が、観戦頻度の高い人と低い人の間でどう異なるかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

本研究は、関東圏に本拠地を置く球団の2016シーズンのホームゲームの観戦者を対象とした。質問項目は、調査対象者の基本属性、ソーシャルキャピタルを構成する3項目(構造的、認知的、関係的)を用いた。ソーシャルキャピタルの項目は先行研究を基に要因の定義と照らし合わせ表現を設定、更に応援参加、再観戦意図を含めた。

## 3. 結果

図1は要因間の関係性を示している。ソーシャルキャピタルを構成する構造的要因から関係的要因への有意な影響は見られなかった。観戦回数の高頻度群、低頻度群の比較検討の結果

では、低頻度群は構造的要因から全ての要因に与える影響は見られなかったのに対し、高頻度群は全ての要因で有意な影響が見られた。関係的要因は応援参加、再観戦意図に影響を与えることも明らかとなった。この結果は高頻度群と低頻度群の間で共通していた。

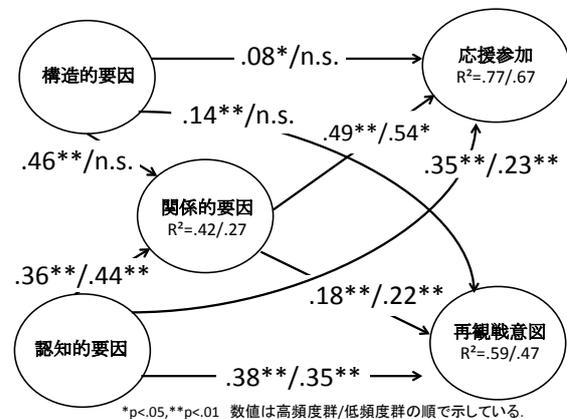


図1 要因間の関係性

## 4. 考察および結論

ソーシャルキャピタルを構成する3つの要因の中で最も違いが見られたのは、構造的要因であった。リピーター層はスタジアムに何度も来場しているため、他のファンと直接交流しやすい。これにより、構造的要因が結果要因に影響を及ぼしたものと考えられる。観戦頻度別に差が見られたことは、本研究で導き出した新たな発見である。

### 【引用参考文献】

長積仁 (2006) スポーツ振興とソーシャル・キャピタルの相互補完的關係: ソーシャルキャピタル研究の視座と可能性. 徳島大学総合科学部人間科学研究, 14 : 9-24.